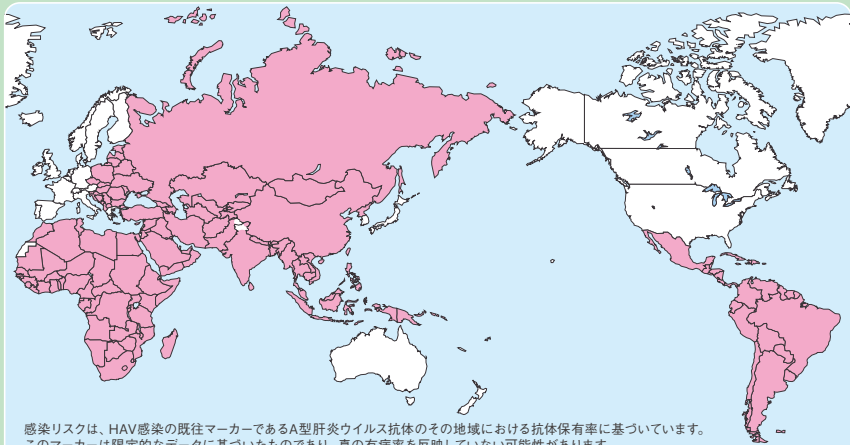


A型肝炎の流行状況について教えてください。



感染リスクは、HAV感染の既往マーカーであるA型肝炎ウイルス抗体のその地域における抗体保有率に基づいています。このマーカーは限定的なデータに基づいたものであり、真の有病率を反映していない可能性があります。

■ A型肝炎のリスクが中等度～高度の国および地域

2012 WHO International travel and healthをもとに作成

厚生労働省検疫所FORTH (<https://www.forth.go.jp/useful/infectious/name/name01.html>) アクセス2019年9月。

毎年、世界中で約140万人のA型肝炎の患者が発生していると推計されています⁷⁾。最近、米国や韓国でもA型肝炎の流行が確認されていますので、仮に渡航先が先進国であっても接種が勧められます。



7) WHO. Immunization, Vaccines and Biologicals. Hepatitis A (<https://www.who.int/immunization/diseases/hepatitisA/en/>) アクセス2019年9月。

A型肝炎ワクチンを受けた後に注意すること



- 接種当日は、激しい運動は避けて、接種部位を清潔に保ちましょう。
- 接種当日は入浴しても差し支えありませんが、接種部位はこすらないようにしましょう。
- 注射後に接種部位が赤く腫れたり、痛んだりすることがありますが、通常2～3日で治ります。もし、高熱やけいれんなどの異常反応や、体調の変化があれば、すみやかに医師の診察を受けてください。
- まれに30分以内に急な副反応が起こることがありますので、接種医療機関でお待ちいただくか、医師とすぐに連絡がとれるようにしておきましょう。

その他、何かご心配なことがありましたら、ご相談ください。

meiji

Meiji Seika ファルマ株式会社

kmb

KMバイオロジクス株式会社

AK000302[®]
(SW)
作成：2019.11
10M-20Y

海外渡航者が知っておきたい、 A型肝炎とその予防

A型肝炎とはどんな病気ですか？

- A型肝炎は、A型肝炎ウイルスが感染しておこる病気です。
- A型肝炎ウイルスに汚染された水や食材（野菜、果物、魚介類、生肉など）を食べることで感染します。
- 糞便中に排泄されたA型肝炎ウイルスが伝播し、家族内に二次感染がおこることもあります¹⁾。
- 2～7週間の潜伏期間の後に、急な発熱、全身のだるさ、黄疸^{おうだん}などが現れます²⁾。多くは数週間程度の入院が必要になります。症状は軽いこともありますが、劇症肝炎^{きつしやへん}といって命にかかわることもあります¹⁾。
- 成人は小児よりも所見や症状が現れやすく、高齢者では重症度と死亡率が高くなります²⁾。



A型肝炎にかからないためにはどうしたらいいですか？

- A型肝炎はワクチンで予防できます(任意接種)¹⁾。
- 日常生活における予防法は、調理の前、食事の前、トイレの後などに十分な手洗いを行うことです。
- 流行地域では、生水や生の食材などにA型肝炎ウイルスが付着している可能性があります。ミネラルウォーターや一度煮沸させた水、加熱調理した食物を選びましょう²⁾。

1) 国立感染症研究所 (<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/320-hepatitis-a-intro.html>) アクセス2019年9月。
2) 厚生労働省検疫所FORTH (<https://www.forth.go.jp/useful/infectious/name/name01.html>) アクセス2019年9月。

A型肝炎ワクチンの接種スケジュール

3回接種します。2～4週間隔で2回接種し、3回目は1回目の接種から24週後に接種します。



ワクチンの効果を早く獲得するときは2週間隔で2回接種します。長期に免疫を維持するためには3回目の追加接種が望まれます³⁾。

※次回注射するときには、できるだけ前回と反対側の腕に受けることが推奨されています。

3) 予防接種ガイドライン等検討委員会、予防接種ガイドライン 2019年度版、予防接種リサーチセンター、2019、95。

他のワクチンとの同時接種は?



医師が必要と認めた場合に同時接種を行うことができます。特に、海外渡航の出発までに時間的余裕がない場合は、必要に応じて同時接種を行うこともあります⁴⁾。

4) 日本渡航医学会 海外渡航者のためのワクチンガイドライン2010作成委員会、海外渡航者のためのワクチンガイドライン2010、協和企画、2010、1。

ミニ知識 海外渡航者以外でA型肝炎ワクチンが必要なのは?

- A型肝炎患者と接触機会が多い医療従事者
- 調理師、生鮮食品を扱う関係者
- し尿処理施設などの職員
- 保育園、幼稚園などの職員、もしくはは保育園、幼稚園の関係者
- 集団発生・家族内発生時の周辺の方
- 慢性肝疾患などの基礎疾患のある方



ワクチン接種の対象者は?

東南アジア、中南米、アフリカ、ヨーロッパの一部(主に地中海沿岸および東欧)などの海外流行地域*への旅行者や長期赴任者およびその家族

*裏面のA型肝炎流行状況の世界地図をご参照ください。



子どもでもA型肝炎ワクチンは必要ですか?

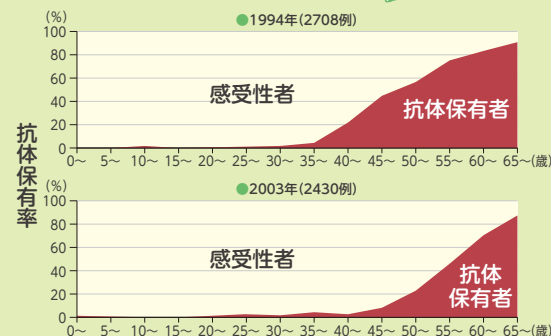
流行地への旅行や長期滞在時には、子どもでも接種が勧められます。A型肝炎ウイルスに感染すると、子どもでも症状が強く出る場合があります。また、症状が軽くてもウイルスが糞便中に排泄され、感染源になることがあるためです。海外では、A型肝炎ワクチンを主に1歳以上の子どもに接種します⁵⁾。

5) CDC (<https://www.cdc.gov/vaccines/schedules/downloads/child/0-18yrs-child-combined-schedule.pdf>) アクセス2019年9月。



国内のA型肝炎抗体保有状況は?

2003年の調査では、60歳以上では70%以上と、高い抗体保有率でしたが、60歳から40歳にかけて急激に減少し、40歳以下ではほぼ0%であることが分かりました⁶⁾。前回の調査から10年ほど経過していますので、現在は、50歳以下の方が抗体を持っていないと考えられます。



6) 国立感染症研究所 (<https://www.niid.go.jp/niid/ja/hepatitis-a-m/hepatitis-a-iasrtpc/5333-tpc419-j.html>) アクセス2019年9月。